

しんがた か まな
新型コロナウイルス禍で学んだこと

しんがた
新型コロナウイルス(以下コロナと略す)禍とは、コロナが招いた危機的で不幸な出来
ごと
事のこと、「禍」ひと文字で「わざわい」と読みます。

さくねん がつ ちゅうごく ぶ かんし さいしよ しょうれい かくにん いこう ちゅうごくかくち おお かんせん
昨年11月、中国の武漢市で最初の症例が確認されて以降、中国各地に多くの感染
しゃ かくにん
者が確認されたというニュースが流れました。その後、全世界に拡大したコロナ(感染に
よる疾患をCOVID-19 という)ですが、その拡がりの速さと、目に見えない恐怖で、
せいかつ いっぺん
生活が一変することとなりました。パンデミック(ある感染症が世界的に流行する)と
いう言葉をよく聞くようになりました。

まずは、これまでの国内の様子をまとめてみましょう。

はじめて日本での感染者を確認したのは1月16日。2月下旬には累計感染者数が
100人を超え、3月下旬には新たな感染者が1日に100人を超える日が続くようになり
ました。それからというもの、連日報道されるのはコロナ関係ばかり。ピーク時には1日
720人も新たな感染者を記録しています。学校は長く臨時休校が続き、勤め先によ
ってはテレワーク(職場から離れた所で働くこと)が強く推奨されるようになりました。
ひょうごけん ふく とどう ふけん とくていけいかいとどう ふけん してい ぜんこくてき
兵庫県を含む8都道府県が特定警戒都道府県に指定されるも、全国的にオーバーシ
ュート(感染が爆発的に急増)することが想定されることから全国に緊急事態宣言が出
されました。イベントの中止・延期や、外出自粛、休業要請から、にぎやかだった街が
かんさん
閑散としていきました。ただ、その自粛を徹底的に行うことで、オ
ーバーシュートが回避され、新たな感染者の増加を抑えたといえま
す。

国内で感染者が確認されてからもうすぐ半年になろうとしてい
ます。6月16日現在、累計感染者数約1万7千人、死亡者約900
人に達しています。1日の新たな感染者数は緩やかな減少傾向を



くっつかないモン
#KeepDistance

©2010 熊本県くまモン

つづ 続けています。これは明らかにソーシャルディスタンス(社会的距離 かんせん 感染を防ぐためには 2m以上離れることが効果的)や 3密(密閉空間・密集場所・密接場面)を避けるなどの取組を進めたことでクラスター(集団)感染を防ぐことができました。もちろん、第2波(ふたたび増加傾向に転じること)が起こらないように、これからも意識した行動を続けることを忘れてはいけないと誰もが感じていることでしょう。

いわれなき差別や中傷

ざんねん 残念なことに、今回のコロナ禍で感染者や感染者の組織を責め立てる事象が多く報道されました。感染者を出した大学に脅迫めいたメールや電話が届き、院内感染が発生した病院には文句の電話が鳴りやみません。どんなに個人や組織が注意していても、感染するときには感染してしまうのに。いつ、自分や自分の所属団体に感染が発生するかわかりません。明日は我が身です。そう思えば、非難中傷など、できるはずないのですが。

こうべだいがくめいよきょうじゆ どうししゃだいがくきょうじゆ せかいじんけんもんだいけんきゆう 神戸大学名誉教授、同志社大学教授で世界人権問題研究センター所長の坂元茂樹氏はこう分析しています。「私たちの国は、ハンセン病患者を 90年間にもわたって強制隔離し、患者だけでなく回復した人や家族に対しても差別し続けてきたという負の歴史がある。安倍晋三首相が記者会見で『差別や誰かを排斥しようとする行動は、ウイルスよりも大きな悪影響を社会に与えかねません』と述べたのも、ハンセン病患者の家族に対する被害を認定した昨年の熊本地裁判決を踏まえているのだろう。どんな病気にかった人も差別してはならないという教訓を、今回も生かしてほしい。(中略)私たちがつくりたいのは思いやりのある社会だ。コロナウイルスを恐れるあまり、ごく当たり前の人間性を失わないように行動すべきだ。」

ほか 他にも、自粛生活が続くストレスからか、冷静さに欠ける行動に走る人が出てきました。自粛警察(行政による外出や営業などの自粛要請に応じない個人や店舗に対して私的な取り締まりや攻撃を行う一般市民)と呼ばれる存在です。見えない所で、集団の強さを利用してストレス解消をする人をどう思いますか。

わら お笑いコンビ「ダウタウン」の松本人志さんはツイッターでこう書かれています。「匿名で悪口 書いている人。匿名は善い行いをするときに使うのですよ。」



ありがとう！
医療の最前線でたたかう
全ての人へ感謝を込めて

寛容な心を持って他者への感謝

感染リスクの高い現場で治療にあたる医療従事者、介護や福祉の現場で、感染リスクと向き合いながら最前線で働く人たちへの感謝の気持ちを込めて、決まった時間に職場や仲間と拍手したり、ブルーライトアップ(英国ロンドンではじまった建造物をライトで青く染めて感謝の気持ちを伝える取組)を行ったりすることで、コロナ禍で不安を感じながらも感謝の心を忘れないことの大切さを改めて教えてもらいました。

また、ヨーロッパ各国でも新型コロナウイルスが猛威を振るい、多くの方が亡くなられています。そんな中、ドイツのメルケル首相はテレビを通して国民へ語りかけた演説を何度も行っています。コロナウイルス禍は第2次世界大戦以来の試練であると話し、来る日も来る日も最前線に立つ医療関係者をねぎらっていました。

その日は、さらに「日ごろ感謝される機会があまりに少ない方々にも謝意を述べたい」買い占めなどが問題になっているスーパーで、レジを担当したり棚の商品を補充したりする方へ向け「社会生活の機能を維持してくださっていることに、心よりありがとう」非常時でそれぞれの役割を地道に果たす人への感謝の言葉が続きました。

報道からもわかるように、日本でも感謝を伝える動きが増えてきました。ごみ収集にあたる作業員へ感謝の手紙が届きました。暮らしを支える仕事がコロナ禍で再評価されています。神戸電鉄や神姫バスの運転手さん、宅配の方などなど、いつもと変わらぬ姿が目に入るとホッとします。他にも挙げたい職種は数多くあります。社会生活の機能を維持してくださっていることに、感謝申し上げます。

まだまだ完全に安心できる状況ではありません。イライラを感じることもあるかもしれません。そんな時は深呼吸して外に出られなかった頃を思い出してください。今の幸せを感じ、良い方向に進むことを願って、普段通りの優しい心を持ち続けてください。



いじめ「ゼロ」のまちへ

いじめは、子どもたちの成長を妨げるとともに、時には、命までも奪ってしまう重大な問題です。子どもたち一人一人は「社会の宝」であり、かけがえのない大切な存在であることから、子どもたちを社会全体で守り育てていかなければならないことを私たちは改めて考えなければなりません。

じどうせいと 児童生徒のみなさん

いじめは、いつでも、だれにでも起こりえます。いじめを自分たちの問題として考え、日ごろから、人を大切にする心をもって過ごしましょう。

もし、いじめられたり、いじめてしまったり、また自分の周りのいじめに気付いたりしたときには、勇気をもって、信頼できる人に相談しましょう。

かぞく 家族のみなさん



いじめが重大な人権侵害であり、どんなことがあっても決して許されないことであることを家族全員で確かめ合ってみましょう。

いじめの被害にあった場合や、いじめに加わった場合などは、どうすべきかを子どもと一緒に考えましょう。

また、インターネット等の適切な使い方についても改めて話し合ってみましょう。

ちいき 地域のみなさん

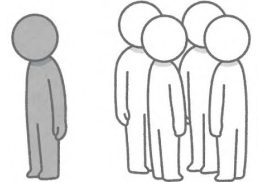
いじめについて正しく理解し、地域の中でいじめをなくすため、様々な機会に声かけをするなど子どもたちを見守っていきましょう。

いじめって

「子どもが、他の子どもの心や身体に影響することをい(インターネットを通じて行うことも含みます)、それを受けた子どもの、心や身体が傷ついて苦しんだりすること」を「いじめ」といいます。

たとえば

- ◆悪口や脅し文句
- ◆金品を要求する
- ◆仲間はずれ
- ◆冷やかしかからかい
- ◆集団による無視
- ◆わざとぶつかる
- ◆物を隠す
- ◆遊ぶふりをして、叩いたり、蹴ったりする
- ◆物を壊したり、捨てたりする
- ◆イヤなことや恥ずかしいことをさせる
- ◆危険なことをさせる
- ◆ネット上で、悪口や嫌がらせを書く など



三木市子どもいじめ防止センター

電話: 0794-82-8110

相談日 月曜日～金曜日

時間 午前9時～午後5時

ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp



右のQRコードを読み取り、メールやSNSで相談できます。